

「2年での実現は奇跡」

登録土質改良基幹技能者制度が始まり、全国建設発生土リサイクル協会（JASRA・東京都千代田区）は、登録の認定に必要な講習会を本年度から開始した。制度の本格開始にあたって、赤坂泰子理事長と小重忠司常務理事（情報・広報部長）は「着手から2年で実現できたのは、まさに奇跡だ」と話した。

登録土質改良基幹技能者の講習会は、同協会が昨年7月に国土交通省から実施機関としての指定を受け、1回目をこし5月、2回目を今月15日に開催した。とび・土工の職長らが全国から集まったほか、会員以外にも参加者が広がりを見せ、土質改良職への注目度の高さを示した。

——土質改良の登録基幹技能者制度を目指した理由は。

赤坂 土木工事の資格は各種あるので、土の専門技術者でも同じように作られた。長い間、土を専門的に扱ってきた者のプライ

協会は設立から「土サミット」の開催や土質改良プラントの第三者認証、改良土品質基準の公開など矢継ぎ早に実行した。

——今回の制度は着手から2年足らずで実現しました。

小重 土の現場で働く職人向けに、キャリアを明確にできる資格が欲しかった。技術者のモチベーションにもつながる。これから市民権を得ていく必要があるが、資格者が何人いるかで、品質や技術力を評価できるようにしたい。



登録基幹技能者制度は、国土交通大臣登録された機関が認定し、講習会を実施し、修了した者に与えられる。専門工事の担い手となることや、機械技能者や作業能力を要するもの、現場の技術者のレベルアップ、営繕業務の効率化など、さまざまなメリットがある。



赤坂理事長と小重常務理事

登録基幹技能者 土質改良の制度を開始

家が集まったことも大きい。小重 切り込み隊長の赤坂理事長、先端技術センタ

ー参事である高野昇専務理事、元請けとしても実績のある古光組（石川県）の副

社長・古光成寛理事、京都大学大学院教授である勝見武顧問ら、経験と知識、実行力のあるメンバーが集まった。突破することが難しいと思われたことでも、それぞれの個性が融合して奇跡が起きた。

生土・改良土の利用促進を引き続き訴えて行く。人の質、プラントの質を高めてブランドを確立することも重要だ。そのために、JASRA会員が製造する改良土の品質基準として「改良土品質基準」を定めた。今後、この基準への適合性を認定する「JASRA改良土認定制度・仮称」を創設して、より品質確保に努めたい。

建設キャリアアップシステム（CCUS）

建設技能者の資格や現場での就業履歴を登録・蓄積して、能力評価につながる仕組み。適正な評価が技能者の処遇改善につながるほか、技能者を育成する企業が伸びていく環境づくりに役立つ。国土交通省と建設業団体が連携して普及・利用促進に取り組んでいる。

——建設キャリアアップシステム（CCUS）と連動すると、4段階ある職人レベルの中で最上位となるゴールド（レベル4）として評価されますが。

小重 これまで土質改良プラントの運営事業者は、元請け会社に依頼しなければ、CCUSで就業履歴を残せなかったが、プラント運営事業者が「元請け登録」をできるようになり、

自社で技能者登録・能力評価できるようになった。CCUSの積極的な活用を呼び掛けていきたい。

赤坂 ゴールドになると、総合評価方式で加点されるので、入札に参加する者にとって大きな魅力となる。ただ、元請けとして入札に参加していない専門業者には、あまり関係ないことが課題でもある。

小重 そのへんのところを我々の協会が変えていく必要がある。発注者が安心して改良土を使えるように、登録基幹技能者のいるプラントやCCUSを導入している会社を選定基準としてほしい。点数を持っている人がいれば、プラントとしてのランクが上位になるという世界が来るかもしれない。

——今後の展開としては。

赤坂 経済性だけを重視するのではなく、環境循環型社会の必要性から建設発